

科目名	危機管理論特殊研究	担当者	カワナカ ケイイチ 川中 敬一	期間	通年	単位数	4
-----	-----------	-----	--------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>経済のグローバル化という傾向は、多くの人びとが認知される場所であろう。他方、経済のグローバル化は、経済活動の展開される空間の安定が破壊されれば一瞬にして崩壊してしまうという峻厳な事実が、日本においては等閑視される傾向にあることも事実であろう。</p> <p>国際社会における種々の危機事態を回避し、これに対処するためには、自己と他者とを等身大・公平な認識・評価に立脚した危機事態と非危機事態の峻別に基づく自己の最適行動方針の決定が、グローバル化が進行する現在、誰にも求められる必須の活動である。</p> <p>本研究では、第1にアジア・太平洋地域の超大国たる米国と中国の思考・心情的基軸を理解する。第2に、その理解に立脚した両国関係史の概観を通じ、同地域の不変の構造と潮流を理解する。第3に、前記2つの理解により、国際社会で活動するに当たっての上記素養を養うことを目的とする。</p>		
到達目標	<p>【一般目標 (GIO)】 国際社会における現象の構造と潮流を淵源から帰納し法則を導く知識と技能を修得する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 ①アジア太平洋地域の基盤の構造と潮流を把握することにより、世界情勢を理解し、国際社会が直面している問題を説明することができるようになる。②自ら考えて問題を発見し、解決策を提案することができるようになる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 レポート1編作成に当たり、基本教材及び参考文献熟読に25時間以上、指導・再提出に20時間以上を当てることを基準とする。</p>		
学修方略 (方法)	<p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 manaba folioを使用したインタラクティブな添削指導を実施する。</p> <p>【学修方略 (LS)】 (1)レポート：年2回(レポート課題×4) (2)講義：年2回実施されるスクーリング受講をもって代える。 (3)その他：必要を認めた場合及び受講者の希望により、受講者を招集した特別講義を実施する。</p>		
スケジュール	<p>1. 基本教材1関連レポート(各課題とも表紙を除く4,500～7,500字)</p> <p>① 初稿提出期限：平成30年7月1日 ② 最終稿提出期限：平成30年9月15日</p> <p>2. 基本教材2関連レポート(各課題とも表紙を除く4,500～7,500字)</p> <p>① 初稿提出期限：平成30年11月30日 ② 最終稿提出期限：平成31年1月10日</p> <p>3. その他 各レポートとも、1頁当たり40字×30行で作成すること。</p>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	80%	レポート課題に対する適切な理解を基点とし、問題の設定、論理展開性、記述態様、注・参考文献選択の適否、そして、独創性の観点から評価する。
	平常評価	20%	最終稿提出以前における指導に対する修正度合い。
履修者への要望	<ul style="list-style-type: none"> 円滑な学習を図るため、履修届提出後直ちに担当教員(kawanaka.keiichi@nihon-u.ac.jp)宛てに連絡をすること。 レポート作成に際して、教材の概要を羅列するのではなく、提示された課題に対する自己の具体的問題設定を記述し、そこに論述が収斂するよう配慮すること。 考察に当たっては、現今の現象にとらわれることなく、歴史を通じた思想・情緒・文化を融合した安全保障という基軸に沿って、自己の関心分野における論証を展開すること。 博士後期課程学生は、次頁に示した参考図書(資料)のみでは不足している。既述図書及びそれ以外の図書に関する情報提供の用意をしている。そのためにも、極力早期にレポートにおいて自己が明らかにしたいことを担当教員に示すこと。 		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	(1) 著者名： 未里周平 教材名： 『セオドア・ルーズベルトの生涯と日本』 丸善プラネット/2013年/ISBN：9788-4-86345-173-5/1,600円
	(2) 著者名： 麻田貞雄 教材名： 『マハン海上権力論集』 講談社/2010年/978-4-06-292027-8/920円
	(1)：米国の建国から海外進出に到る過程と、一貫した中国観を正確かつ平易に解説している。米国の世界観と対外姿勢の枠組みを理解する上での入門書として必読の書である。 (2)：米国の海外進出行動の理論的基盤であり、後年における日本との確執の萌芽となったマハンによる海洋戦略思想を包括的に理解する上での必読書である。
参考図書	① 渡辺惣樹『日本開国』（草思社、2016年）/978-4-7942-2204-6/1,890円 ② 森孝一『宗教からよむ「アメリカ」』（講談社、1996年）/978-4-062-58070-0/1,944円 ③ 松岡完等『冷戦史』（同文館出版社）/4-49-546331-4/2,900円 ④ ジョージ・F・ケナン『アメリカ外交50年』（岩波書店、2000年）/4-00-600030-8/1,100円 ⑤ アーネスト・メイ『歴史の教訓』（岩波書店、2004年）/4-00-600120-7/1,300円
履修上のポイント	課題答申に関する基本教材及び参考図書を読むに当たり、以下の点に留意すること。 (1) 米国の建国理念が、国家建設過程において、いかに反映されてきたのか。 (2) マニフェスト・デスティニーという概念が、米国の対外史上の各現象において、どのように作用してきたのか。 (3) (1)と(2)の延長で、米国の不変的な対中国観及び対日本観の概要は、どのようなものであるか。 (4) (1)～(3)で得られる米国の不変構造の今日における意義は、どのようなものであるか。
レポート課題 1	「米国の伝統的対中観が、現今アジア情勢に如何なる形態で表出しているのか、自己の関心分野に関連させて具体的に考察せよ」 留意点： 瞬間的な米国の対アジア政策にとらわれず、歴史的尺度をもって考察する。
レポート課題 2	「第 2 次世界大戦における日本敗北の遠因を米国の歴史的アジア政策の観点から自己の関心分野を基軸として考察せよ」 留意点： 米国は、歴史的にアジアで何を達成し、何を各国に期待したのかを考察する。

基本教材 2	
教材の概要	(1) 著者名： 丸川哲史 教材名： 『中国ナショナリズム』 法律文化社/2015年/ISBN：978-4-589-03692-6/2,400円
	(2) 著者名： 海洋政策研究財団 教材名： 『中国の海洋進出』 成山堂書店/2013年/ISBN：9778-4-425-53151-6/2,400円
	(1)：大陸と台湾という 2 大中華世界におけるナショナリズムを人文的・社会的歴史から解説している。中華世界指導層の理念と思考方式を理解する上での必読書である。 (2)：中国軍事研究家による中国の海洋進出という現象の本質を包括的かつ実務的に解説している。特に、第 1～第 4 章は、必読箇所である。
参考図書	① 横山宏章『中国の政治危機と伝統的支配』（研文出版、1996年）/4-87636-141-X/3,650円 ② 横山宏章『米中関係の歴史的展開』（研文出版、1992年）/4-87636-146-0/3,300円 ③ 丸川哲史『魯迅と毛沢東』（以文社、2010年）/978-4-7531-0278-5/2,800円 ④ ハインリッヒ・シュリーマン『シュリーマン旅行記 清国・日本』（講談社、1998年）/4-06-159325-0/800円 ⑤ 村井友秀『戦略論体系⑦毛沢東』（芙蓉書房出版、2004年）/4-8295-0308-4/3,800円
履修上のポイント	課題答申に関する基本教材及び参考図書を読むに当たり、以下の点に留意すること。 (1) 近代中国各政権の理念における連続(不変)性と不連続(可変)性は何か。 (2) 中華世界指導層の不変的な国内統治観と対外姿勢とは、それぞれどのようなものか。 (3) (1)と(2)の延長にある近代中国革命の本質と、それが現今の国内外政治へ及ぼしている影響。 (4) (1)～(3)で得られる中華世界を基軸とした国際社会構造における日本の定位を考察する。
レポート課題 1	「中国の領土問題(分裂・独立阻止等)に対する執念の淵源を具体的に考察せよ」 留意点： 近代史における“天下”問題と台湾問題を核心に置いて分野横断的に考察する。
レポート課題 2	「日本の各種活動が、米中関係の不変的構造において、いかなる地位を占めているのか考察せよ」 留意点： 米中関係を安全保障分野を基軸とする多面的観察から、総合的に日本の定位を考察する。